



2019年5月10日

# JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部 No. 42

## 支部長就任のご挨拶と 国際大会へのお誘い

支部長 石川 有香  
(名古屋工業大学)

新緑が目まぶしい季節となりました。支部会員の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと、6月より、前支部長の村田泰美先生の後任として、中部支部長を拝命することになりました。中部支部は、1983年の創立以来、英語教育研究の発表や研鑽の場として諸先輩の先生方が積み上げてこられた歴史ある支部ですので、身の引き締まる思いです。微力では

ございますが、諸先輩や支部役員の先生方のご指導を受けつつ、また、支部会員の先生方のご意見を伺いつつ、支部運営にあたらせていただく所存です。任期となります2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ここで、JACETの支部活動の一部をご紹介しますと思います。現在、JACETでは、中部支部を含め、7つの支部が活動を行っております。これら7支部が持ち回りで、毎年、国際大会を開催することになっております。早いもので、2012年に愛知県立大学で開催されました第51回JACET国際大会から7年が経過しました。本年は、再び、中部支部が国際大会の開催を担当いたします。

第58回JACET国際大会は、2019年8月28日(水)から8月30日(金)の3日間、『『ボーダーレス』の先に変革する社会における英語教育 (Beyond 'Borderless': English Education in a Changing Society)』をテーマとして、名古屋工業大学にて開催いたします。現代社会では、「グローバル化」が進み、国の「境」が曖昧になっているだけではなく、AIによる芸術作品も売り出されるなど、人間と機械の役割の「境」さえも曖昧になっています。社会が大きく変容する現在において、英語教育のあるべき姿とはどのようなものでしょう。

大会では、国際応用言語学会 (AILA) 会長の Daniel Perrin 教授 (チューリッヒ大学)、CLIL 研究で名高い Angel M. Y. Lin

### 目次

支部長就任のご挨拶と国際大会へのお誘い 石川有香	1頁
中部支部講演会のお知らせ 石川有香	2頁
講演会報告1 榎木菌鉄也氏「グローバル時代のインド英語」 岡戸浩子	3頁
講演会報告2 中井陽子氏「インターアクション能力を育てる会話教育のための理論と実践」 村田泰美	4頁
研究会報告 ライティング研究会 木村友保	6頁
事務局より	7頁

教授 (Simon Fraser 大学)、そして、JACET 副会長の田地野彰教授 (名古屋外国語大学) による 3 つの基調講演の他、ライティング研究で著名な Paul Kei Matsuda 教授 (アリゾナ州立大学) による特別講演や、ICT 活用による自律学習を支える授業づくりのワークショップも行います。また、中部支部企画としては、「Z 世代とその先を見据えた英語教育 (English Education for Generation Z and Beyond)」をテーマに特別シンポジウムを行います。その他にも、さまざまなワークショップやシンポジウム、特別講演、研究発表、実践報告など、数多くのプログラムを予定しております。

中部支部では、村田泰美前支部長の主導の下、支部役員会と大会準備委員会が 1 年以上をかけて準備を進めてまいりました。4 月からは、国際大会組織委員会として統合され、新たな委員も加わりました。現在は、会員の先生方をお迎えする準備が佳境に入ったところです。会場にて、先生方にお目にかかれますことを楽しみにしております。

#### 中部支部講演会 (2019/ 6/15) のお知らせ

### 英語プレゼンテーションの 指導と評価

石川 有香  
(名古屋工業大学)

英語技能が満遍なく使用される点 (資料を収集する Reading、原稿を作成する Writing、発表を行う Speaking、発表を理解する Listening、質疑応答を行う Interaction) だけではなく、学習者の論理

的思考や批判的思考を育成し、異文化理解の精神を寛容し、モチベーションを保持するといった利点が広く認められ、プレゼンテーション活動を取り入れた英語教育の研究や実践報告が散見されるようになっていきます。

一方で、実際に、プレゼンテーション活動を授業に取り入れようとする、時間的制約や客観的評価基準の欠如などの問題に出くわすこともあります。一体、大学英語教育の枠の中で、何を、どこまで、どうやって教えれば良いのか、そして、何を基準に、どう評価するべきなのか、指導と評価の難しさを感じておられる先生方も多いのではないのでしょうか。

中部支部では、来る 6 月 15 日 (土) に、「英語プレゼンテーションをどう教えるか—指導と評価」のテーマで、名城大学天白キャンパスにて、講演会を開催いたします。講演会では、まず、プレゼンテーション指導に豊富な経験をお持ちの野中アンディ氏 (コミュニケーションスキル協会) から、「プレゼンテーションを通じた効率的英語習得」のタイトルでご講演をいただきます。次いで、村田泰美氏 (名城大学) がモデレーターとなり、野中アンディ氏、小口真澄氏 (MARBLES)、三熊祥文氏 (広島工業大学) をパネリストに迎えて、英語プレゼンテーションの指導と評価を考えるシンポジウムを行います。

グローバル時代において、自ら課題を設定して情報を収集し、多角的視点に立って議論ができる人材の育成をどう行っていけばよいのか、先生方とともに考えることができる機会となれば幸いです。どうぞみなさま、お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 講演会報告 1

中部支部 2018 年度春季定例研究会

講演

「グローバル時代のインド英語」

榎木 蘭 鉄也 氏

(中京大学)

2019 年 3 月 2 日

(於: 名古屋工業大学)

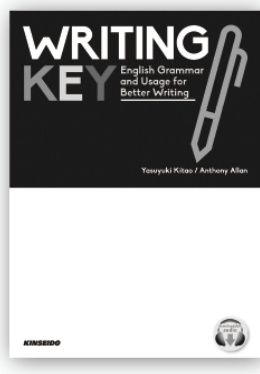
グローバル化が進む社会で、母語が異なる者同士がコミュニケーションを行う場合の代表的な共通語としてはまず英語が挙げられるであろう。国際的人口移動の活発化も手伝い、世界中で生じている数多のコミュニケーションの場面では、個々人の母語が干渉する多様な英語が存在し使用されていると言える。今回、世界の諸英語の中でも「インド英語」の研究に従事されてきた榎木蘭鉄也氏による「グローバル時代のインド英語」と題した講演が 2019 年 3 月 2 日に行われた。昭和時代にインド英語に接する日本人はまださほど多くはなかったと思われるが、グローバル化が進んだ現在では、その数も増加してきているのではないだろうか。しかし、学校などでアメリカ英語やイギリス英語を中心として学習してきた多くの日本人にはインド英語は分かりにくいという印象が一般的に持たれているかも

しれない。

インドは人口が多く、異民族が集まる多様な文化、言語、宗教が存在する国家である。公用語はヒンディー語（連邦公用語）と英語（準公用語）である。憲法第八附則で指定された言語に英語はないが、中央政府では主として英語が使用されているという。その他に主要言語としてヒンディー語あるいは英語を州公用語とする州が多いとのことである。このように、インドの文化的および言語的特徴としては「多様性」が挙げられと言える。

氏は、そのような言語社会的な状況下でのインドの言語教育政策の一方策である「三言語方式」について、すべての生徒が第 10 学年までに、①母語（地域語の場合が多い）、②ヒンディー語、③英語の 3 言語を学ぶとされていると説明した。例として、ヒンディー語圏では、母語がヒンディー語の場合がほとんどであるため、①母語（ヒンディー語）、②英語、そして③インドの言語から一つ以上の合計 3 つの言語を学ぶことになっている。英語はインド全州・全地域で教えられており、教えられている学校数も最多であるという。

インド人にとっては、学校でのテキスト、周囲の人々、テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットメディアからの英



### Writing Key

English Grammar and Usage for Better Writing

英語の感覚をつかむ文法からライティングへ

北尾泰幸 / Anthony Allan 著

文法のエッセンスを良質のインプットで吸収！  
英語の感覚を磨き、自然な英文を書くための 15 章

¥1,800 (税別) B5 判 68 pp. 全 15 章 ISBN978-4-7647-4086-0

**K**  
KINSEIDO

**金星堂**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21  
電話 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716  
text@kinsei-do.co.jp http://www.kinsei-do.co.jp

語がモデルとなっている。具体的には諸英語の中でも、大きくは、教育を受けたインド人が使用する英語、イギリス英語、そして 1990 年代の衛星放送の普及以降のアメリカ英語が挙げられる。インド映画の歌詞には英語が氾濫しており、インド英語に少なからず影響を与えているようである。しかし、二重母音が長母音化するなどの「発音」、そしてインド在来の語彙が混入するなどの「文体・語彙」にインド英語の特徴を見い出すことができ、インド英語が上記のモデル的な英語に近づいていくかと言えば必ずしもそうではないという。氏によれば、たとえば綴りにアメリカ英語の影響を受けていても、発音はインド式になっているものがある。

インド英語もグローバル化の影響を受けながら 1 つの英語変種として存在していることが改めて確認される。都市部、農村部ともに中間層以上では英語を教育言語とする学校へ子どもを通わせているという。今後、そのような中間層の増加に伴い、インドにおける英語人口は一層増えるであろうが、貧困層にとって英語はやはり外国語で遠い存在であると氏は述べる。近年のインドのますますの経済発展に伴い、日本人が海外のビジネス場面で、そして日本社会でも在留外国人として増加傾向にあるインド人とコミュニケーションを行う機会がますます増加することも予測されるため、この度の講演内容は英語を改めて捉え直す上でも大変興味深いものであった。そして氏ならではのいつもながらのユーモアに溢れた様々なエピソードを拝聴することができる良い機会ともなった。

岡戸 浩子 (名城大学)

## 講演会報告 2

中部支部 2018 年度春季定例研究会

講演

「インターアクション能力を育てる  
会話教育のための理論と実践  
—日本語教育の例から—」

中井 陽子 氏

(東京外国語大学大学院)

2019 年 3 月 2 日

(於: 名古屋工業大学)

最近言語技能としての interaction という単語を耳にする人は多いかもしれない。日本語訳は複数ある。CEFR-J の中では「やりとり」、社会言語学では「相互行為」という単語が当てられる。定訳がないため、そのままカタカナ語で表す場合は「インターアクション」ないしは「インタラクション」となる。英語音韻規則に従えば、/r/ は発音されるであろうが、本報告では中井氏のカタカナ表記を用いる。

さて、中井氏はインターアクション能力を「人と関わりを持つ文脈の中で、相手と協力して、瞬間瞬間に生成されるインターアクションを調整しつつ、言語行動、社会言語行動、社会文化行動が適切に行える能力」と説明する。言語行動とは「語彙」「文法」「音声」「文字」の使用によって可能になり、社会言語行動は社会の文脈において適切に言語行動を遂行すされるかどうかに関する能力で、たとえば会話の開始の方法や誰と誰が会話するのかなどの知識を必要とする。社会文化行動とは「実質行動」と考えられ、「食べる」「物を作る」などの行動や「態度」「意識」「人格」などへの理解を含み、社会文化行動は言語行動と社会言語行動を

基礎として、総和的に表れる行動と捉える。中井氏は、その2012年の著書において「音声言語や非言語をリソース」として、「会話相手と協力して会話空間」を作りながらインターアクションを行う能力を「会話能力」と定義している。インターアクション能力は会話を成立させるために必要な能力ではあるが、同一のものではないということになる。



それではインターアクション能力を育てるための会話授業の設計とはどのようなものか。中井氏は会話運用にはメタ認知力、すなわち「自己と他者による会話に関する知識を持ち、自己の会話を客観的にモニターして調整していく能力」が必要なことから、メタ認知力と運用力を育成するための3段階構成の授業を提案している。第1段階はインターアクションに関する知識導入(FACT)、第2段階はインターアクションの実践(ACT)、そして第3段階は自己分析(内省)である。中井氏は自身が実践している日本語初級後半授業、中上級、上級の授業を詳細を交えて紹介し、どのように3段階構成授業が展開されるのかを分かりやすく提示した。たとえば初級後半授業では基本的な語彙や文法を使って積極的に会話に参加できるという目標に沿って、談話レベル

での会話指導学習項目がまず教えられる(FACT)。そして実際に日本人学生と会話する機会がビジターセッションとして与えられる(ACT)。さらにメタ認知を促すためのフォローアップ・インタビューがなされるという展開である。

特に印象的であったのは中上級授業のビデオ作品作成プロジェクト授業である。中井氏は学生たちが作成した実際のビデオ映像を披露したが、ここでも会話データ分析(FACT)、学習者たちの台本準備、実演、ビデオ化(ACT)、ビデオ上映による自己分析と意識化(メタ認知力育成)という3段階が示された。

今回の講演は日本語教育だからこそ、その会話教育におけるニーズも把握しやすく、理論も理解しやすかった。日本語教育を通して英語教育を理解することができるのは一つのアイロニーかもしれないが、英語教育、特に日本における英語教育が日本語教育から学ぶこと、そして応用できることがとても多いことを再認識した講演であった。

村田 泰美 (名城大学)

 <b>成美堂 2019年度 新刊のご案内</b>		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22 TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
<p><b>New Connection Book 3</b> ..... 2,200 円(税別)</p> <p><b>Let's Read Aloud &amp; Learn English: On Campus</b> ..... 2,200 円(税別)</p> <p><b>Science Explorer</b> ..... 1,900 円(税別)</p> <p><b>Go Global -English for Global Business-</b> ..... 2,400 円(税別)</p> <p><b>Travel English at Your Fingertips -Revised Edition-</b> 1,900 円(税別)</p> <p><b>CBS NewsBreak 4</b> ..... 2,400 円(税別)</p> <p><b>Discovering Cool Japan</b> ..... 2,500 円(税別)</p> <p><b>AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC® L&amp;R TEST</b> ..... 2,200 円(税別)</p> <p><b>ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC® L&amp;R TEST</b> -Revised Edition- ..... 2,000 円(税別)</p>	<p><b>Meet the World 2019 -English through Newspapers-</b> 2,000 円(税別)</p> <p><b>World of Wonders: A Brave New World</b> ..... 1,900 円(税別)</p> <p><b>Medical Front Line</b> ..... 2,500 円(税別)</p> <p><b>Talking with Your Patients in English</b> ..... 2,500 円(税別)</p> <p><b>English for Student Pharmacists 2</b> ..... 2,800 円(税別)</p> <p><b>Fundamental Science in English II</b> ..... 2,000 円(税別)</p> <p>小学校英語科教育法-理論と実践- ..... 2,800 円(税別)</p>	<p><b>株式会社 成美堂</b>  <b>SEIBIDO</b></p> <p style="font-size: x-small;">●書籍の情報はホームページでもご覧になれます。</p> <p>URL: <a href="http://www.seibido.co.jp">http://www.seibido.co.jp</a> e-mail: <a href="mailto:seibido@seibido.co.jp">seibido@seibido.co.jp</a></p>

## 研究会報告

### ライティング研究会

#### The Writing Research Group

ライティング研究会とは、英語で文章を書くこと、また英語で文章が書けるよう指導することに興味を覚える人たちが月に一回、できるだけ多くのメンバーが参加できる日を設定して集まる研究会のことです。現在は8名からなる研究会ですが、中部以外の地域からも関心を持っていただいて将来的には文字通り全国的な研究会になる可能性があります。

正直に申し上げますと、代表の家庭事情で、ここ何年も年数回の研究会しか開催できない時期が続きました。しかし、この3月で代表が19年間勤めていた本務校を定年・退職して名誉教授になった今、以前よりも時間的余裕が持てるようになり、この4月からは月一回の研究会が持てそうです。幸いにも、この数年の間に新しいメンバーも加わり、しかも「英語教育学科」という特異な学科を卒業した若手研究者もメンバーに得て、今年の1月、2月、そして4月と続いている研究例会では、メンバーの活発な意見交換があり、ライティング研究会の将来に光が差し込み始めました。

「英語で文章を書くこと」に関しては、『なぜ人は書くのか』（茂呂雄二著、1993年）を基本図書として利用し、まずは人が文章を書かざるを得ない状況とはどのような状況であり、その状況下で書かれた文章にはどのような力が、また特徴があるのかを探ります。ここでは必ずしも、文法的に正しい文章やコンテキストに合った文章だけを材料としません。また外国語である英語とか、母語とかの区別も

あまり意識しません。現時点の研究会で一番多く指摘されているのが「対話者」の存在です。そしてどうも「よい文章」というものは、「対話者」とのやり取りの中で生み出されるものであるということです。

「英語で文章が書けるように指導すること」に関しては、『Writing Without Teachers (Peter Elbow, 1998)』を基本図書として利用し、最近の論文を参考図書として読んでいます。研究会のメンバーは高校であれ、大学であれ、全員が英語を教えています。そして多種多様な教育環境で英語を教えています。全員がライティングの効果を信じています。たとえば、「ライティングがリーディングの力を高める」とか、「スピーキング力を高めるためにもライティングは必要である」というようにライティングの効果を信じています。そしてライティング指導の究極の目標は学習者が自分の力でライティング力を高めていくことだと信じていますが、少なくともどんな教育機関で教えようと、「ライティング力を高めるには教師の支援は不可欠である」とも信じています。その支援の仕方を模索するのがこの研究会の目標であると言えます。

<b>Amazing Visions of the Future</b> Aspects of Human Activity	
国際社会への英語の扉 インプットからアウトプットで学ぶ四技能	
伊與田 洋之／赤塚 麻里／ 土居 峻／梶浦 真由美／ Marikit G. Manalang／室 淳子	
B5判 定価(本体1900円+税) ISBN978-4-523-17888-0	
株式会社 南雲堂 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 TEL: 03-3268-2311 / FAX: 03-3268-2486	

今回の研究会は6月1日と決まりました。それまでにやることは現在の授業の状況を『高等教育における英語授業の研究—学習者の自律性を高めるリメディアル教育—』（JACET 第2次授業学研究特別委員会編、2012年3月発行）の事例にならってまとめ、提出することです。関心のある方は [tomoyasu@gol.com](mailto:tomoyasu@gol.com) まで自由にご連絡ください。

木村 友保（名古屋外国語大学）

#### 掲示板

『JACET 中部支部紀要』第17号への掲載論文の投稿（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集します。ぜひ奮ってご応募ください。

締切： 2019年9月10日

刊行予定： 2019年12月

掲載料： 刷り上がり1ページにつき、  
1,000円の負担

長さ： 研究論文23ページ以内、実践報告15ページ以内、研究ノート15ページ以内、書評5ページ以内

問合せ： JACET 中部支部事務局

投稿方法等の詳細については紀要の投稿規程およびホームページでご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

## 事務局より

### ◆ 新入会員のご紹介

2018年12月から2019年4月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。（敬称略、入会順）

ナット ジュリアン（東海学園大学）、ベリ トーマス（南山大学）、Klassen, Marshall（金沢星稜大学）、ヘイスティングス クリス（愛知県立大学）、稲葉 えいり（愛知教育大学 [院]）、井ノ口 悦子（金沢工業大学）、加藤 尚子（南山大学 [非]）、地村 みゆき（愛知大学）、杉山 優太（中部大学 [非]）、マッケンディ タニヤ（名城大学）、西脇 幸太（愛知文教大学）、横越 梓（名古屋工業大学）

### 2019年度 中部支部役員（敬称略）

#### 顧問

田中 春美（南山大学名誉教授）、

吉川 寛（中京大学）

#### 理事・支部長

石川 有香（名古屋工業大学）

#### 理事・副支部長

佐藤 雄大（名古屋外国語大学）

#### 支部事務局幹事

伊東 田恵（豊田工業大学）

#### 支部会計幹事

三上 仁志（中部大学）

### 支部研究企画委員

安達 理恵（愛知大学）、石川 有香（名古屋工業大学）、伊東 田恵（豊田工業大学）、今井 隆夫（愛知教育大学）、大石 晴美（岐阜聖徳学園大学）、大森 裕實（愛知県立大学）、岡戸 浩子（名城大学）、北尾 泰幸（愛

知大学)、木村 友保 (名古屋外国語大学)、  
リーア・ギルナー (愛知大学)、倉橋 洋子  
(東海学園大学)、小宮 富子 (岡崎女子短  
期大学)、佐藤 雄大 (名古屋外国語大学)、  
塩澤 正 (中部大学)、鈴木 達也 (南山大学)、  
馬場 景子 (中部大学)、藤原 康弘 (名城大  
学)、三上 仁志 (中部大学)、村田 泰美 (名  
城大学)、吉川 寛 (中京大学)

◆ 2019 年度 JACET 国際大会ご案内

第 58 回 (2019 年度) 国際大会は 2019  
年 8 月 28 日 (水) ~ 30 日 (金) に名古  
屋工業大学 (名古屋市昭和区) にて開催さ  
れます。大会テーマは以下のとおりです。

「ボーダーレス」の先に変革する社会に  
おける英語教育

Beyond 'Borderless': English Education in a  
Changing Society

◆ 2019 年度秋季定例研究会ご案内

2019 年度秋季定例研究会は 2019 年  
11 月 16 日 (土) に愛知大学名古屋校舎  
(名古屋市中村区) にて開催されます。発  
表申し込み期間は 9 月 1 日 ~ 9 月 30 日  
です。詳細は JACET 中部支部ホームページ  
にて近日中に告知されます。

◆ 事務局変更のお知らせ

2019 年 4 月より中部支部事務局は豊  
田工業大学伊東田恵研究室内に移転しま  
した。支部運営についてのご意見ご要望  
などございましたらお気軽にお寄せ下さ  
いませ。なお、JACET 関係のご連絡につ  
きましては、メール表題に【JACET 中部】

とお書き添えください。

◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員みなさまに、紀要や  
Newsletter などの郵便物をお届けできない  
事例が増えています。お手数ですが、転居  
の際には、JACET 本部事務局と中部支部  
事務局の両方に、住所変更届をご提出く  
ださい。詳細は、以下のサイトをご覧くだ  
さい。

・ JACET 中部支部ホームページ

<http://www.jacet-chubu.org/>

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォー  
ラムです。ご意見、ご要望等は事務局ま  
でメールでお送りください。投稿も歓迎いた  
します。

JACET 中部支部事務局

〒468-8511 愛知県名古屋市天白区

久方二丁目 12-1

豊田工業大学 伊東田恵研究室内

E-mail: [tae@toyota-ti.ac.jp](mailto:tae@toyota-ti.ac.jp)



**JACET-Chubu Newsletter No. 42**

2019 年 5 月 10 日発行

発行者: 一般社団法人 大学英語教育学会

中部支部 (代表) 石川有香

編集者: 伊東田恵 佐藤雄大 北尾泰幸